

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あひるのあくび」 教材名「あひるのあくび」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読する。思考・判断・表現では、繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確かめて音読する。交流や試行の前後を比べ、響きと読み方の記録を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)ク）	①「話すこと・聞くこと」において、繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確かめて音読している。（A(1)ウ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、言葉の響きとまとまりを中心に学ぶ。繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確かめて音読する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)クとA(1)ウに関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるA(1)ウを関連事項として加えた。成果は、響きと読み方の記録に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、速く言うことだけを目標にすることである。ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試す。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○言葉の響きとまとまりに関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す響きと読み方の記録の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2 (本時は2時)	○繰り返される音を見付け、口の動きや調子確かめて音読する。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	3	○響きと読み方の記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」 【めあて】言葉の響きとまとまりについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が続くところを声に出すと面白い。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。速く言うことだけを目指にする姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認して質問や応答を返す。 4 「音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が続くところを声に出すと面白い。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①繰り返される音を見付け、口の動きや調子を確認して音読している。(A(1)ウ) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 響きと読み方の記録を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】声の出し方は、音の特徴と聞き手への伝わり方を確かめながら調整する。 6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。音の繰り返しをどんな声で読むと楽しいかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (響きと読み方の記録と実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、繰り返される音を見付け、口の動きや調子確かめて音読している姿である。発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録を基に判断する。速く言うことだけを目標にする場合は、ゆっくりした読みから始め、音を落とさず言える速さで試す。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には言葉の響きとまとまりを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に響きと読み方の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

